

『パクサム・ジュンサン』の仏教史年表前文

西岡祖秀

I. スムパ・ケンポ・イエーシェー・ペルジョル Sum pa mkhan po Ye ces dpal ḥbyor (1704-1788年) が1748年に著わした『パクサム・ジュンサン』中には、チベット仏教に関する完備した形の年表が掲載されている。この年表が『パクサム・ジュンサン』中にいかなる位置を占めるかを、本文中に示された科段と科文を掲げることによって見てみたい。

序文. (f. 1b¹); part I², p. 1)

1. 仏陀の出現と教法の確立. (ff. 2a-39b; pp. 1-64)

2. 法王・仏教者・宗派のおこり.

2. 1. インド仏教史. (ff. 39b-95a; pp. 65-146)

2. 2. チベット仏教史.

2. 2. 1. 法王統. (ff. 95a-108a; part II, pp. 147-166)

2. 2. 2. 教法のおこり.

2. 2. 2. 1. 前期伝播. (ff. 108b-115a; pp. 166-176)

2. 2. 2. 2. 後期伝播. (ff. 115a-256a; pp. 176-406)

2. 2. 2. 3. 翻訳者とバンディタによってチベット語訳された経論. (ff. 256a-272a; part II, pp. 406-430+part III,³ pp. 3-5)

2. 2. 2. 4. チベットの学者たちの(時代の)前後を容易に知るために生没年を年表に示す.

2. 2. 2. 4. 1. rab byuñ が始まる以前の主要年をいくつか述べる. (fol. 272a-b; pp. 5-7)

2. 2. 2. 4. 2. rab byuñ 12 (1027-1746年)の全年を年表に示す. (ff. 273a-287b; pp. 7-90)

2. 3. 中国仏教史. (ff. 288a-300b; pp. 91-160)

2. 4. 蒙古仏教史. (ff. 300b-316a; pp. 160-176)

後書き. (ff. 316a-317a; pp. 176-179)

以上のように、『パクサム・ジュンサン』はチベット仏教史を前期伝播 (sña dar) と後期伝播 (phyi dar) に二分して述べたあと、その末尾に既に本文中に取り上げ

た主要人物を年代順に整理して、先ず翻訳事業について翻訳者とパンディタをリストアップし翻訳経論の目録(ブトゥンの『仏教史』目録部を引用)⁴⁾を示し、次いで主要事項を年表に纏めているのである。年表は rab byuñ が始まる1027年以前の主要年を1葉足らずに記述した、いわば年表の前文とでも言うべき部分(上記科段の(2.2.2.4.1))と、1027年から1746年までの720年を全12葉の年表に示した部分(上記科段の(2.2.2.4.2))⁵⁾とから成る。後者についてはS. C. ダスの英訳⁶⁾があるが、ヴァストリコフが酷評するように⁷⁾極めて不完全なものである。本稿では前者の和訳を示すことにより、年表の全貌を知る手がかりとしたい。

II. 和訳のテキストには五召当廟本(注1, f, 272a⁷-b⁷)を使用し、ローケーシュ・チャンドラ本(注3, p. 5, l. 17-p. 7, l. 2)も参照した。文中、ある年の記述が終り、次に示す年の記述が始まる直前に、前記の年から何年が過ぎたという経過年数⁸⁾がチベット数字で記入されているが、訳文においてはそれをアラビア数字で括弧内に示した。また十千・十二支によって示されるチベット暦の相当西暦年⁹⁾は、それに続く括弧内に記した。

[和訳]…(前略)…仏陀¹⁰⁾が「火のえ午」(紀元前915年)に誕生されてから498年が過ぎ、また入滅された「火のと卯」(紀元前834年)から417年が過ぎた「木のえ子」(紀元前417年)にニヤーキ gNaḥ khyi が(お生まれになった)。またそれから660年が過ぎた「木のえ子」(244年)にラ・トリ lHa tho tho ri がお生まれになり、60年目(303年)に有雪国に正法が広まる前兆が起こり、さらに60年おわして「水のと亥」(363年)に没した。(253)それから254年目¹¹⁾の「火のえ丑」(617年)にソンツェン・ガムボ Sroñ btsan sgam po がお生まれになり、(7)その8年目の「木のえ申」(624年)にギャムツォ・ナムゲル rGya mtsho rnam rgyal がシャンバラの王位に着き、Me mkhaḥ rgya mtsho 暦¹²⁾が始まり、マカ Ma kha でダンツィ・ロドゥー sPrañ rtsi blo gros の外教が成立した。(15)それから順次に「土のと亥」(639年)にラデン・トゥルナン lHa ldan ḥKhrul snañ (大招寺)の基礎を据えた。(28)「火のえ卯」(667年)に(『カラチャクラ・タントラ』の)¹³⁾「成就品」が完成した。(123)「金のえ午」(790年)にティソン Khri sroñ がお生まれになり、(16)「火のえ戌」(806年)に byed rtsis (派)¹⁴⁾が成立した。(3)「土のと丑」(809年)に阿闍梨のパドマ Padma が(チベットに)来られ、その3年目すなわちサムイェー(寺) bSam yas 完成の年である「金のと卯」(811年)に医学者であるキュンボ Khyuñ bo の古ユトグ・ユンテンダンボ¹⁵⁾ g-Yu thog sña ma Yon tan mgon po は25歳になった¹⁶⁾のであると言われる。(55)「火のえ子」(866年)にレルパチェン Ral pa can が(お生まれになった)。(26)また「水のえ子」(892年)にラチェン・ゴンバラブセル bla chen dGoñs pa rab gsal がお生まれになった。

(9)「金のと酉」(901年)にランダル Glan dar が衛蔵の仏教を破壊しおえた。(57)「土のえ午」(958年)に大翻訳家のリンサン Rin bzan が(お生まれになった)。(9)また「火のと卯」(967年)にインドでツィルパ Tsi lu pa が時輪教を広めたと言われる。(6)「水のと酉」(973年),あるいは(3)ナナム・ドルワン sNa nam rDor dbaṅ がお生まれになった「火のえ子」(976年)から(2)3年目の「土のえ寅」(978年)に後期仏教伝播が始まった。(4)「水のえ午」(982年)にアティージャ Jo bo rje が,(8)「金のえ寅」(990年)にキュンポ・ネルジョルパ Khyuṅ po rnal ḥbyor pa が,(3)「水のと巳」(993年)にドクミロツァ・シャークイエー ḥBrog mi lo tstsha Ḥāk ye が,(11)「木のえ辰」(1004年)にアヴヤカラ A bhya ka ra とドム ḥBrom とゲル rGyal のレン・ツルチャン Glan Tshul byaṅ がお生まれになった。(5)ルメー Klu mes 師資が「土のと酉」(1009年)の年にモラギェル(寺)Mo ra ḥgyel を建立した。(1)「金のえ戌」(1010年)にレン・イエーバル Glan Ye ḥbar とゴク・チャンチュン rNog byaṅ ḥbyuṅ が出家し,ゴクは(1)「金のと亥」(1011年)にイエルワ・ワレン(寺)Yer ba Ba reṅ を建立した。その年(1011年)にナクツォロツァ・ツルゲル Nag tsho lo tstsha Tshul rgyal とクトウン・ツウンドゥー・ユンドゥン Khu ston brTson ḥgrus g-yuṅ druṅ が(お生まれになり),(1)また「水のえ子」(1012年)にダバ・グンシェチュン・シェルゲル Grwa pa mNon ges can Ḥer rgyal とマルパロツァ・チュロ Mar pa lo tstsha Chos blo がお生まれになり,同年にシャン・ナナムパ Shaṅ sNa nam pa がゲル・ラカン(寺)rGyal lha khaṅ を保持した¹⁷⁾。(2)「木のえ寅」(1014年)にニンマ派のスルチュン・シェルダク Zur chuṅ Ḥer grags が生まれる。(1)「木のと卯」(1015年)にネルジョルパ・アメー・チュンポ rNal ḥbyor pa A mes chen po が,(1)「火のえ辰」(1016年)にゼー・グンパパ mDzed dGon pa pa が,(1)「火のと巳」(1017年)にギャガル・チャグナ rGya gar Phyag na とチャク・ティチョク Chag Khri mchog がお生まれになり,ドゥメル Gru mer がスルナク・タンボチェ(寺)Sol nag Thaṅ po che を建立した。(3)「金のえ申」(1020年)にツェン・カボチェ bTsan Kha bo che が,(3)「水のと亥」(1023年)にゴク・チュドル rNog Chos rdor が,(2)「木のと丑」(1025年)にカムルンパ・シャークユン Khams luṅ pa Ḥāk yon がお生まれになった。(1)その翌年の「火のえ寅」(1026年)で Me mkhaḥ rgya mtsho (403年)が終り,その翌年に rab byuṅ 第1の「火のと卯」(1027年)となり,法王のニマ Ņi ma がシャンバラの王位に着いたのである。

III. 以上のように,この前文は仏陀の生没年を基準とし,順次に経過年数を数えて主要な年名を年代順に配置し,該当事項を記したものである。ここに所載された人名の殆どは誕生年のみが示され,その死亡年はこの後に続く年表中に見い出される訳で,前文と年表は不可分のものであるといえる。なお,前文中の

古代史にかかわる記述は、敦煌文献を駆使した現在の古代史研究の成果¹⁸⁾ からすれば荒唐無稽で取るに足らないものであるが、チベット人仏教史家の説、延いてはチベット人の一般的理解がいかなるものであるかを知る上での貴重な資料といえよう。最後に前文中に所載された諸事項の索引を付す。数字は該当西暦年を表わす。

〔索引〕

Klu mes, 1009.
 Khams luñ pa Čāk yon, 1025.
 Khu ston brTson ḡgrus g-yuñ druñ, 1011.
 Khyuñ po rnal ḡbyor pa, 990.
 Khri sroñ, 790.
 Gru mer, 1017.
 Grwa pa mÑon ces can Čer rgyal, 1012.
 Glañ dar, 901.
 Glan Tshul byañ (rGyal), 1004.
 Glan Ye ḡbar, 1010.
 rGya gar Phyag na, 1017.
 rGya mtsho rnam rgyal, 624.
 rGyal lha khañ, 1012.
 sGrub paḡi leḡu, 667.
 rÑog Chos rdor, 1023.
 rÑog byañ ḡbyuñ, 1010, 1011.
 Chag Khri mchog, 1017.
 Jo bo rje, 982.
 Ñi ma, 1027.
 gÑaḡ khyi, B. C. 417.
 Nag tsho lo tstsha Tshul rgyal, 1011.
 rNal ḡbyor pa A mes chen po, 1015.
 sNa nam rDor dbañ, 976.
 Padma, 809.
 sPrañ rtsi blo gros, 624.
 phyi dar, 973, 978.

byed rtsis, 806.
 bla chen dGoñs pa rab gsal, 892.
 ḡBrog mi lo tstsha Čāk ye, 993.
 ḡBrom, 1004.
 Ma kha, 624.
 Mar pa lo tstsha Chso blo, 1012.
 Me mkhaḡ rgya mtsho, 624, 1026.
 Mo ra ḡgyel, 1009.
 Tsi lu pa, 967.
 bTsan Kha bo che, 1020.
 mDzed dGon pa pa, 1016.
 Shañ sNa nam pa, 1012.
 Zur chuñ Čer grags, 1014.
 g-Yu thog sña ma Yon tan mgon po, 811.
 Yer ba Ba reñ, 1011.
 rab byuñ dañ po, 1027.
 Ral pa can, 866.
 Rin bzañ, 958.
 Sañs rgyas, B. C. 915, B. C. 834.
 Sol nag Thañ po che, 1017.
 Sroñ btsan sgam po, 617.
 bSam yas, 811.
 lHa tho tho ri, 244, 363.
 lHa ldan ḡKhrul snañ, 639.
 A bhya ka ra, 1004.

- 1) *Collected Works of Sum-pa-mkhan-po*, vol. 1 (317 fols.), śata-piṭaka series, vol. 214, New Delhi, 1975.
- 2) S. C. Das : *PAG SAM JON ZANG*, part I, II (pp. 1-430), Calcutta, 1908.
- 3) Lokesh Chandra : *DPAG BSAM LJON BZAN*, part III (pp. 1-179), śata-piṭaka series vol. 8, New Delhi, 1959. なお本書の pp. 1-2 は注 2) の part II, pp. 429-430 と重複。

- 4) 拙稿『『ブトッン仏教史』目録部索引』I(東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要, 第4号, 昭和56年) p. 64, n. 12; II(同第5号, 昭和57年) p. 46, n. 3; III(同第6号, 昭和58年) p. 54, n. 2 参照。
- 5) 年表部分は ff. 273a-284b までの12葉であり, 残りの3葉(ff. 285a-287b)には, 本年表の記載と矛盾する他の史書の説に対する批判を述べる。なお年表は1葉の表裏をそれぞれ縦3段, 横10段に区切り合わせて60区画をとり, それに 1 rab byuñ の60年を割り当てている。
- 6) S. C. Das: Life of Sum-pa Khan-po, also styled Yeśes-Dpal-hbyor, the author of the Reḥumig (Chronological Table), *Journal of the Asiatic Society of Bengal*, part I, no. II. 1889, pp. 37-84 参照。
- 7) A. I. Vostrikov: *Tibetan Historical Literature*, Culcutta, 1970, pp. 130-137 参照。
- 8) チベット文献では, ある事件から次の事件までの時の長さを表現するのに, 基準年から何年が過ぎたとしてその経過年数を示す場合と, 第何年目という表現をとる場合とがあり, その詳細は山口瑞鳳(a)「チベット史料の年次計算法」『東洋学報』第63巻3・4号, 1982年, pp. 141-168 参照。本前文中にも上記の二種の表現が使い分けられている。
- 9) rab byuñ の始まりである「火のと卯」が1027年であることから逆算して求めた。山口瑞鳳(b)「チベットの暦学」『鈴木学術財団研究年報』第10号, 1973, p. 77, p. 89 (n. 1); 『藏漢大辞典』北京, 1985, pp. 3195-3214 参照。
- 10) 仏誕年次を「火のえ午」に, 仏滅年次を「火のと卯」とするのは, チベットにおける暦学の二系統(byed rtsis と grub rtsis) のうちの byed rtsis であり, スムバ・ケンポはこの派を支持した。山口前掲書(b), pp. 80-81; A. I. Vostrikov 前掲書, p. 108, n. 337 参照。
- 11) 「それ(363年)から254年目」は $363+253=616$ で「火のえ丑」(617年)にはならない。法王統を述べる箇所(f. 101b⁴; part II, p. 156)でも, 経過年数をチベット数字で253と示したあと「それから250余年が過ぎた火のえ丑に」とあり, いずれも経過年数を254年とすべきものと思われる。
- 12) Me mkhaḥ rgya mtsho は403を表わす語で, その暦は624年を元年とし403年目の1026年をもって終わる(本前文の1026年の項参照)。山口前掲書(b), p. 82, p. 89 (n. 1), p. 92 (n. 51); 『藏漢大辞典』pp. 2106-2107 参照。
- 13) Lokesh Chandra: *Kongtrul's Encyclopaedia of Indo-Tibetan Culture*, śata-piṭaka series vol. 80, New Delhi, 1970, p. 591. ll. 5-6 参照。
- 14) 注10) 参照。
- 15) 拙稿「チベット医学文献序説」『田村芳朗博士還暦記念論集・仏教教理の研究』東京, 昭和57年, pp. 636-640 参照。
- 16) 動詞の“lon”が用いられ, 到達年の811年が25歳のうちに数えこまれているため, 古ユトグの誕生年は787年ということになる。山口前掲書(a), pp. 152-153 参照。
- 17) 動詞“bzuñ”が用いられているが, 『テプテル・グンポ』(Lokesh Chandra: *The Blue Annals*, śata-piṭaka series; vol. 212, New Delhi, 1974, p. 79, l. 3)では“btab”(建立した)とある。
- 18) 山口瑞鳳「吐蕃王国仏教史年代考」『成田山仏教研究所紀要』第3号, 昭和53年, pp. 1-52; 同『吐蕃王国成立史研究』東京, 昭和58年, 参照。

(四天王寺国際仏教大学助教授)